

# 読書論 ～本の良さを見直そう～



執筆メンバー



後列左から佐々木静香さん、西岡麻子さん、  
登坂尚也さん。前列左から和田真実さん、  
我妻亜矢香さん、今井菜都子さん

所属：経済学部経営情報学科 鈴木克典  
教授ゼミ（3年生）

このページは、市民の視点による広報誌作りを進める厚別区役所からの依頼を受けて、私たち北星学園大学の学生6人で執筆しました。私たちは、大学のゼミで消費者の意思決定行動やマーケティングなどを研究していますが、文献の読解力や研究結果を的確に伝える表現力の重要性をあらためて感じています。そこで、『読書』の効果をテーマに選び、レポートを作りましたのでお読みください。

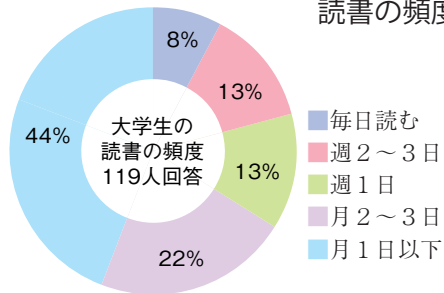


小学校図書室への取材



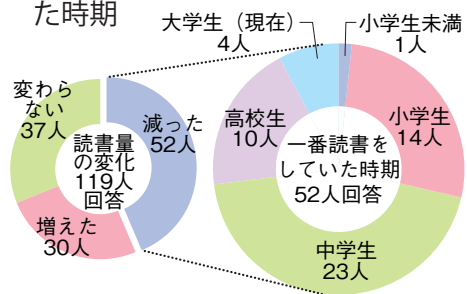
編集作業

■北星学園大学経済学部学生の読書の頻度



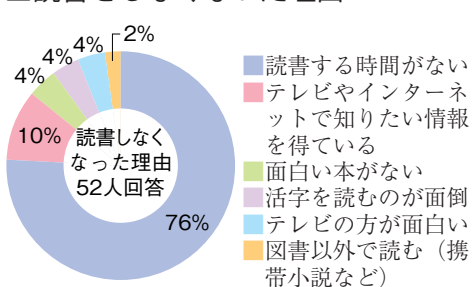
**大学生は本を読んでいる？**  
最近、私たち大学生を含めた若者が本を読まなくなっているといわれています。そこで、北星学園大学経済学部の学生119人に読書に関するアンケートを行ってみました。  
その結果、「読書をする日が月1日以下」と回答した学生が44%に達し、約半数の52人が、以前より読書量が減ったと答えています。その主な理由は「時間がない」、「テレビやインターネットで知りたい情報を得ている」などでした。学生が読書から遠ざかってしまう背景としては、テレビやインターネットといったメディアの浸透があります。少ない時間を生かして、これら

■読書量の増減と一番読書をしていた時期

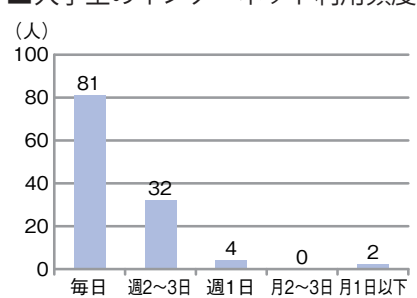


のメディアで得た各種の情報を自分の中でつなぎ合わせ、一つのカタチにすることで役立つものにする習慣が身に付いているのです。  
**読書は必要ない？**  
しかし、これらのメディアを利用することで、本を読むことと同じ効果が得られるのでしょうか？  
本は、論理立てて書かれた知識が集大成されたものです。文章の一行一行を読み解きながら、頭を使って理解を深めていくことで思考力や想像力が身に付きます。  
テレビなどの映像で視覚に訴えるメディアは、視聴者の理解とは無関係に進む一方的なものです。人によっては、

■読書をしなくなった理由



■大学生のインターネット利用頻度



そのスピードについていけず、理解を深めることが難しいでしょう。  
インターネットは、検索機能を利用して要点のみをとらえることもできるので便利です。しかし、それでは物事の全体を把握できず、浅い知識になってしまっているのではないのでしょうか。

